

【参考資料】

現時点における中レベル廃棄物のインベントリーと今後の発生量

発生者	インベントリー	年間発生量
ANSTO のラジオアイソトープ生産、HIFAR 炉および新研究炉の運転、研究等	205m ³	2000年～2005年 1.53 m ³
		2005年以降 1.62m ³
	2035年 5 m ³ (炉心支持構造物等の HIFAR 炉のデコミ廃棄物)	
	～2020年 20 m ³ (HIFAR 炉の使用済み燃料の処理後に返還されるセメント固化廃棄物)	
ANSTO の HIFAR 炉および新研究炉のデコミッションング	6 m ³ (HIFAR 炉の使用済み燃料の処理後に返還されるガラス固化・圧縮減容廃棄物)	
	2075年 <5 m ³ (炉心支持構造物等の新研究炉のデコミ廃棄物)	
	2025年以降 20 m ³ (新研究炉の使用済み燃料の処理後に返還されるガラス固化・圧縮減容廃棄物)	
産業	165 m ³	—
州、準州	100 m ³	2 m ³
その他の政府機関	35 m ³	1 m ³

国際原子力機関(IAEA)の放射性廃棄物の区分(*オーストラリアの区分)

区分	定義
低レベル放射性廃棄物	放射線防護を必要とするが、取扱、貯蔵、輸送時の遮蔽を必要としない程度の放射能レベルの廃棄物 * カテゴリー-A およびカテゴリー-B
短寿命中レベル放射性廃棄物	取扱、貯蔵、輸送時に遮蔽を必要とするが、非発熱性または極低発熱性であり、長寿命の放射性核種の含有量がわずかな廃棄物(4000 ベクレル/g 未満のアルファ廃棄物)。放射性核種は半減期が 30 年未満のもの。 * カテゴリー-C
長寿命中レベル放射性廃棄物	取扱、貯蔵、輸送時に遮蔽を必要とするが、非発熱性または極低発熱性の廃棄物で、含まれる放射性核種の半減期が 30 年以上のもの。 * カテゴリー-S
高レベル放射性廃棄物	取扱、貯蔵、輸送時に遮蔽および冷却を必要とする発熱性および非発熱性の廃棄物で、発熱量が 2000W/m ³ を上回るもの。 * オーストラリアには高レベル廃棄物は存在しない